

第5回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 平成30年7月6日(金)
開会13時30分 閉会14時59分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者
- | | |
|--------------|------------|
| 教育長 | 鍵本 芳明 |
| 委員(教育長職務代理者) | 上地 玲子 |
| 委員(教育長職務代理者) | 中島 義雄 |
| 委員 | 松田 欣也 |
| 委員 | 田野 美佐 |
| 教育次長 | 村木 智幸 |
| 教育次長 | 日比 謙一郎 |
| 教育政策課 | 課長 中本 正行 |
| | 副課長 細川 誠 |
| | 総括主幹 間野 良一 |
| 高校教育課 | 課長 藤岡 隆幸 |
| 義務教育課 | 課長 石本 康一郎 |
| 生徒指導推進室 | 室長 大重 義法 |
| 特別支援教育課 | 課長 林 栄昭 |
| 生涯学習課 | 課長 小見山 晃 |
| 文化財課 | 課長 大西 治郎 |
- 4 傍聴の状況 2名
- 5 附議事項
- (1) 平成31年度岡山県立高等学校入学者選抜実施大要について
 - (2) 平成31年度岡山県立中学校及び岡山県立中等教育学校入学者選抜実施大要について
 - (3) 岡山県いじめ問題対策連絡協議会及び専門委員会委員の任命について
 - (4) 平成31年度岡山県立特別支援学校の高等部(本科・専攻科)及び岡山県立高等支援学校入学者選抜実施大要について
 - (5) 岡山県生涯学習審議会委員及び社会教育委員の任命について
 - (6) 岡山県立図書館協議会委員の任命について
 - (7) 岡山県文化財保護審議会委員の任命について
- 6 報告事項
- (1) 平成30年度岡山県学力・学習状況調査結果の概要について
 - (2) 中学校生徒の自動車死亡事故について

7 議事の概要

開会

非公開案件の採決

(教育長)

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。本日の議題のうち、附議事項(3)(5)(6)(7)は、人事に関する案件であるため、教育委員会会議規則第12条に基づき、非公開とするよう発議する。

委員から、議題を非公開とする発議はないか。

(委員全員)

(特になし)

(教育長)

この発議は、討論を行わずにその可否を決定することとなっているので、直ちに採決に入る。

附議事項(3)(5)(6)(7)は、非公開とすることに賛成の委員は挙手願う。

(委員全員)

挙手

(教育長)

全会一致により、本案件は非公開とすることに決した。

附議事項(1)平成31年度岡山県立高等学校入学者選抜実施大要について

・高校教育課長から資料により一括説明

(委員)

合格者の発表日と中学校の卒業式実施日は重なっていないのか。

(高校教育課長)

すべては把握できていないが、中学校は本日程を踏まえて卒業式実施日を設定していると聞いている。

(委員)

追検査の合格者の発表日はいつか。

(高校教育課長)

すみやかに発表することとしており、具体的な日程は今後実施要項で示してまいりたい。

(委員)

津山高校理数科は特別入学者選抜のみで募集するのか。

(高校教育課長)

津山中学校から進学する者と、特別入学者選抜の合格内定者を合わせた人数が募集定員を満した場合は一般入学者選抜は実施しない。倉敷天城高校理数科も同様である。

(教育長)

これより採決に入る。議第6号について、原案に賛成の委員は挙手願う。

(委員全員)

挙 手
(教育長)

全会一致により、議第6号は原案のとおり決した。

**附議事項(2) 平成31年度岡山県立中学校及び岡山県立中等教育学校入学者選抜実施
大要について**

- ・高校教育課長から資料により一括説明

(委員)

昨年度の倍率はどうか。

(高校教育課長)

志願倍率は、全体平均で3.3倍である。

(教育長)

これより採決に入る。議第7号について、原案に賛成の委員は挙手願う。

(委員全員)

挙 手

(教育長)

全会一致により、議第7号は原案のとおり決した。

**附議事項(4) 平成31年度岡山県立特別支援学校の高等部(本科・専攻科)及び岡山
県立高等支援学校入学者選抜実施大要について**

- ・特別支援教育課長から資料により一括説明

(委員)

募集定員の増員要望はないのか。

(特別支援教育課長)

ない。

(委員)

各学校の志願者数がどの程度になるか把握しているのか。

(特別支援教育課長)

今後5年間の推計について各学校から聞き取りを行っている。

(委員)

片道1時間以上かけて通学している生徒もいるが、何か手立てはないのか。

(特別支援教育課長)

スクールバスについて、時間を短縮できるコースを設定するなど、毎年希望を聞きながら見直しを行っているところである。

(委員)

高等支援学校について、出願の条件に一人で通学することができるとあるが、難しい条件ではないのか。

(特別支援教育課長)

高等支援学校は、卒業後、就労による社会自立を目指しているため、お話の条件を求めているところである。なお、在校生はいずれも一人で通学することができている状況である。

(委員)

高等支援学校の昨年度の募集定員に対する志願者数はどうか。

(特別支援教育課長)

岡山瀬戸高等支援学校は募集定員40名に対して志願者数が63名、倉敷琴浦高等支援学校は募集定員24名に対して志願者数が36名であった。

(委員)

募集定員を増員してはどうか。

(特別支援教育課長)

学校の施設規模を踏まえ、定員を設定しているところであり、増員は難しいと考えているが、今後の志願者数の状況も見ながら検討してまいりたい。

(教育長)

これより採決に入る。議第9号について、原案に賛成の委員は挙手願う。

(委員全員)

挙手

(教育長)

全会一致により、議第9号は原案のとおり決した。

報告事項(1)平成30年度岡山県学力・学習状況調査結果の概要について

・義務教育課長から資料により一括説明

(委員)

各学年全国約10万人程度の受検者だが、どの都道府県でどのくらい参加しているのか。

(義務教育課長)

業者に確認したところ、本県のように県単位ではなく学校単位で参加しているものも含めると、すべての都道府県で実施されているようである。

(委員)

全国学力・学習状況調査の全国平均と本調査の全国値は意味合いが違うのか。

(義務教育課長)

全国調査と本調査をそのまま比較することは難しいと考えている。ただ、本調査については、昨年度参加している都道府県や学校のほとんどが今年度も引き続き参加していると聞いており、経年比較の信頼性は高いと考えている。

(委員)

中学校2年生で、「学習計画」及び「学習1時間以上」が減少していることについて、各中学校で効果的な指導を行ってほしい。

(義務教育課長)

本県すべての市町村で、中学校に入学すると家庭学習時間が減り、ゲームをする時間が増える状況にある。まずはその要因を調べる必要があると考えており、今後市町村教委に詳細な聞き取りを行ってまいりたい。

(委員)

各学年のスマホ所持率も関係しているかもしれない。

(義務教育課長)

生徒指導推進室とも連携し、調べてまいりたい。

(委員)

成果を上げている市町村はどこか。

(義務教育課長)

昨年度の結果から中学校の1年間でどれだけ伸ばせているかという視点で見ると、倉敷市、瀬戸内市、赤磐市、浅口市、和気町が成果を上げている。

(委員)

どのような取組が効果があったのか。

(義務教育課長)

授業改革推進チームを配置しているところは良い結果が出ている。授業改革推進リーダー・推進員が本務校や兼務校に限らず、市町村の教員が集まる場で中心になって情報交換を行っており、良い取組を普及してきた成果が出始めていると考えている。今年度新たに授業改革推進チームを配置した地域を始め、良い取組を全県に広めてまいりたい。

(委員)

英語の調査結果と英検取得率は相関があるのか。

(義務教育課長)

英検準1級以上等を取得している教員の割合や、授業で発話の半分以上を英語で行っている教員の割合が高い市町村ほど英語の標準スコアが高いという結果が出ており、弱いけれどもある程度の相関はあると考えている。

(教育長)

生徒の英検取得率との相関はどうか。

(義務教育課長)

生徒の英検取得率は教員の見立ても含んでいるため、教員ほど相関はないと考えているが、今後詳しく分析していきたい。

(委員)

全体としては中1から中2にかけて成果を上げているが、つまづいている生徒もいる中、該当生徒をそのままにしないことが大切である。つまづいている生徒に対して各学校できちんと指導してほしいが、どのような取組を行っているのか。

(義務教育課長)

放課後の学習サポートを行っているが、任意参加ではなく、必要な生徒には残るよう指導し、勉強をしてから部活動を行うよう顧問とも連携するなど、取組が徹底でき始めている中学校もある。つまづいたままにせず、放課後に残してでもやらせきるということを県教委としても求めており、徹底してまいりたい。

(委員)

学校によって温度差があるので徹底をお願いしたい。

学習状況調査の質問紙について、「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしていましたか。」という項目があるが、テレビゲームに限らず、YouTubeやTwitterを追加するなど、子どもたちの実態に合わせた質問内容に変更してはどうか。

(義務教育課長)

検討したい。

(委員)

岡山市は本調査を実施していないのか。

(義務教育課長)

岡山市は実施していないが、独自に学力調査を実施しているので、調査結果について今後お互い情報交換を行い、それぞれの成果や課題を共有していく予定である。

(委員)

県立学校の標準スコアは各学校の平均値か。

(義務教育課長)

県立特別支援学校（中学部）、県立中学校・中等教育学校の平均値である。

(委員)

高校の特別入学者選抜で英検を重視する選抜を行っている倉敷天城の英語の結果など、各学校の特色が調査結果に表われているのかどうか、各県立学校別の調査結果を教えてほしい。

(義務教育課長)

後日お伝えする。

(教育長)

英検準1級以上等を取得している中学校教員を増やすための方策はどうか。

(義務教育課長)

取得していない英語担当教員については、英会話スクールによる英語力や指導力を高めるための悉皆研修を5日間行うこととしている。こうした研修の場を継続的に用意し、英語担当教員の英語力の向上に取り組んでまいりたい。

(委員)

本調査の英語の結果と教員の英検取得率の相関がエビデンスとして示すことができれば、教員に対して説得力のある説明ができるので、今後も分析をお願いしたい。

(委員全員)

了 承

報告事項（2）中学校生徒の自動車死亡事故について

- ・生徒指導推進室長から資料により一括説明

(委員)

事案の詳細は分かっていないのか。

(生徒指導推進室長)

警察が捜査を進めているところであり、詳細は分かっていない。

(委員)

分かった段階で報告してもらいたい。

(委員)

本事案を受けて、県立学校長及び市町村（組合）教育委員会教育長あてに通知を發出したとのことだが、保護者あてにも何か通知する予定はあるのか。

(生徒指導推進室長)

岡山市が教育長名で家庭向けにメッセージを発信していく予定と聞いている。

(委員)

岡山市だけなのか。

(生徒指導推進室長)

各市町村（組合）教育委員会教育長あてに指導を徹底するよう通知を發出したところではあるが、再発防止を図っていくことは非常に大切であるため、家庭向けの情報発信も含め、どのような対策が有効なのか、方法を検討してまいりたい。

(委員)

本事案の関係生徒が在籍している学校は学校警察連絡室と関連がある学校なの

か。

(生徒指導推進室長)

関連がないとは言えないが、当該校だけの問題ではないと捉えており、校内での指導と併せて校外における補導対応についても警察と連携しながら進めてまいりたい。

(委員)

再発防止を図る上で、全体への周知も大切だが、個別の問題への対処も必要である。学校と警察が連携し、気になる児童生徒の押さえをお願いしたい。

(委員)

本事案の関係生徒は以前から問題を抱えていたのか。

(生徒指導推進室長)

該当の市教委や学校で既に気にかけていた生徒であるが、関係生徒に様々な形で側面的に関わっている生徒もいることを意識して対応してまいりたい。

(委員全員)

了 承

以下、非公開のため省略。

閉会